躍 いきいき狭山人（びと）

声を出して読むことが好きな仲間
楽しみにしている方のために
これからも私たちの声を届けます

（左）施設での訪問朗読ボランティアと（上）広報さやまのCDへの吹き込み

30年以上続けている会員3名を含む33名の仲間で楽しくボランティア活動。厚生労働大臣表彰は今後の活動の励みになりました

皆さんは、本や新聞などの文章をCDに吹き込んで、目が不自由な方にお届けする「朗読（音訳）ボランティア」をご存じでしょうか。狭山市で、昭和55年から活動を続けている「狭山朗読グループ」もその一つ。毎月「広報さやま」を朗読してCDに吹き込み、「声の広報」として利用者に届けているほか、「社協だより」や新聞の音訳、施設に出向いての訪問朗読、依頼者への対面朗読なども行っています。こうした活動が評価され、このたび平成26年度の厚生労働大臣表彰を受賞しました。

代表の土屋愛子さんは「先輩たちが積み重ねてきたものがこの受賞につながったのだと思います。続けてきてくれた方がいるから今があります」と受賞の喜びを語ります。

グループの発足は、昭和54年に、創立者の故金山以志枝（いしえ）さんが、目が不自由な方から対面朗読の依頼を受けたことがきっかけです。金山さんの働きかけで、この年、社会福祉協議会で初めて「朗読講座」を開催。講座終了後も自主的に勉強を続けた仲間たちと、翌55年に「狭山朗読グループ」を結成しましたが、社会福祉会館が昭和63年にできるまでは、拠点となる活動場所がなく、民家を借りるなどして吹き込みを行っていました。

「雑音が入らないように気をつけていても、犬の鳴き声や玄関のチャイムの音などが突然飛び込んできて、録（と）り直しをしたこともしばしばでした」、「夜中に吹き込んだこともありますが、翌日聴（き）いてみると声が低くて暗い感じなんです。夜は録らない方がいいと講座のときにも言われていましたが…」と、当時の苦労話が次々飛び出してきます。

しかし、それに勝る喜びもいっぱいありました。

『声の広報』をやり取りしている方から『いつもありがとう』というお手紙が同封されてきたことがあります。『あぁ、聴いていただいているんだな』と思って、本当にうれしかったです」

また、最近は、高齢者施設での朗読も増えてきました。聴いている方の表情を見ながら、感情を込め、抑揚をつけたりして読んでいます。

「一つの話を読み終えると『自分でも読んでみたい』という方や感想を発表してくれる方がいます。そんなとき、朗読から生まれたふれあいを実感します。そのことが私たちの元気になるし、読むことの喜びにもなります」と目を輝かせて語ってくれました。

3年前に亡くなられた金山さんは、「狭山朗読グループ10年のあゆみ（平成3年）」の中で、次のように書いています。

「さまざまな人との出会いをとおして心と心を結び合うことのできる、このボランティア活動を誇りとして、グループの方たちと共に手を取り進んでゆきたいと思っています。今後もさらに邁進（まいしん）し、障害者の方々と共に生き、共に育ってまいりたいと思います」

金山さんのこの言葉は、狭山朗読グループの支えとなって受け継がれています。

狭山朗読グループ
代表 土屋愛子さん

※「声の広報」は、広報課で申し込みをお受けしています

みんなでつなぐ 人 市民リレー

私の宝物 …

立ち上げたイベントで使った三度笠

大澤希（けい）さん
（柏原在住）

私の宝物は、平成18年から実施している「むさし100km徒歩の旅」を初めて開催したときに使った三度笠です。

私が狭山青年会議所に所属していたころに企画し、始めたこのイベント。8月に、小学4～6年生と智光山公園をスタートして、4泊5日で天覧山などを経由し彩の森公園まで歩くもので、現在も実行委員会によって続いています。当初、5日間もかかるイベントには内部で反対の声もありました。それでも、手探りながら第1回を開催し、子ども達とゴールすることができました。無事にゴールできたのも、この三度笠が、夏の強い日差しを遮って守ってくれていたおかげです。

このイベントを続けたくても、自分では年齢的にもあと20年が限度。100年先まで続くよう、この三度笠と一緒に後継者たちを見守りたいと思っています。

出かける前は無事完歩をこの笠に祈願します

次回は、広瀬東にお住まいの方を紹介します。

いきいき自治会 狭山台二丁目自治会

年の瀬の風物詩「招福餅つき大会」では、女性会員が大活躍をみせてくれました

狭山台二丁目自治会は、昭和53年に発足し、今年で38年めを迎えました。現在は、450戸の会員数を数えるまでになりましたが、当初は新住民しかいない、まさにゼロからの出発でした。それでも、みんなで「ふるさと創（づく）り」を目指し、夏祭り盆踊り大会や樽神輿（たるみこし）の練り歩きなど、さまざまな行事を実施し、自治会の歴史を築いてきました。昨年末の招福餅（もち）つき大会にも大勢の会員が集まり、もち米50kg、豚汁500食が2時間を待たずになくなるほどの盛況ぶりでした。

自治会発足当時、和太鼓演奏や花笠音頭の踊りを頑張っていた子ども達も、今や指導者となり、次の世代を育てています。

文化財60年のあゆみ ⑫

県指定史跡「七曲井（ななまがりのい）」の修復
～文化財を守り継承していくために～

北入曽にある、すり鉢の形をした古代の井戸「七曲井」。平成15年度の調査で、擁壁（ようへき）の内部が土砂の流失により空洞化し、崩落の危険があることが判明しました。そこで、平成17～18年度に、県と市の教育委員会が合同で、崩落防止のための環境整備工事を行い、井戸の基礎を全体的に補強しました。

この工事により、貴重な文化財である「七曲井」を保護し、後世へ引き継ぐことが可能となりました。

※「文化財60年のあゆみ」は今月で終了します

工事完了後

工事前の七曲井

ハロー仲間たち Vol.402

入曽を記録する会

昭和30年ころまでは、駅から少し離れると畑や雑木林が広がる農村地帯。その後、あちこちに住宅地が造成されてきたのが入曽地区です。

私たちの会は、入曽に住み、入曽を愛し、そして写真を趣味とする仲間が集まって平成20年に発足。24年には、大正から平成までの約70年間の写真を集めた「写真集いりそ」を発刊しました。写真で初めて見た時代の変化は、言葉に言い表せないものがあり、感動することもたびたびでした。

現在は、それぞれが撮影した写真を持ち寄り「入曽の歳時記」をテーマとした写真集を制作中です。歴史と伝統が残る自然豊かな街（まち）「入曽」には、そこで生まれた人も知らない魅力がたくさんあります。これからも、入曽の姿を伝え続けていきます。

問合せ田口利明さんへ☎2959-8745